

# 検体採取方法 < 鼻咽頭ぬぐい液 >

高知県幡多福祉保健所

## ●必要物品

- スワブ
- ウイルス輸送液の入った滅菌容器
- パラフィルム □ジップ付きポリ袋
- 手指消毒剤 □感染性廃棄物容器



## 【防護具】

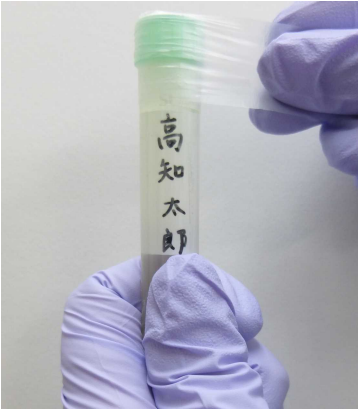

- ゴーグル／フェイスシールド
- N95マスク(注1) □ガウン
- キャップ □手袋

(注1) 患者が咳を認めず、換気を十分に行える環境下であれば、サージカルマスクの着用で検体採取は可能

## 手 順

1		<p>①必要な防護具を着用し、必要物品を準備する。</p> <p>②患者氏名をあらかじめスピッツに記載しておく。</p>
2		<p>※患者のくしゃみ等飛沫を浴びないように患者の横や斜め後ろから採取する。</p> <p>①患者にはマスクを鼻下まで下げ、手で口元を押さえてもらう。</p> <p>②患者に少し上を向いてもらい、スワブを2～3cm鼻腔内に挿入したのち、鼻腔底に沿ってゆっくりとスワブを進める。</p> <p>③抵抗を感じたところ（成人では8～10cm）で止める。</p> <p>④その位置で10秒間保持し、鼻汁を浸透させたのち、スワブを回転させる。</p>
3		<p>①ウイルス輸送液にスワブを漬け、拭い液を溶かすように左右に数十回動かす。</p> <p>②スワブは感染性廃棄物容器へ捨てる。</p>

手 順

4		スピッツの蓋をしっかり締めて、パラフィルムを巻く。
5		①介助者にジップ付きポリ袋を開けてもらい、外側に触れないように検体容器を入れる。

※検体採取後、可能な限り速やかに氷上または冷蔵庫（4℃）に保管し、輸送開始までに48時間以上かかる場合は-80℃以下で凍結保存する。-80℃の冷凍庫がない場合は通常の冷凍庫（-20℃程度）で保存でよい。